

物大者徑三寸、每節有二三枝、枝頭有五葉、其子長三四寸、核黑、穰白、食之甘美、陳藏器曰、子如算袋、穰黃子黑、食之當去其皮、蘇云、色白、乃猴薑也、本草圖經云、生作藤蔓、大如指、其莖薨大者徑三寸、葉頗類石草、又似芍藥、三葉相對、夏秋開紫花、又有白花者、結實如小木瓜、

〔和爾雅七草木〕アケビ通草木通萬年藤並同子名燕覆

〔東雅十四果藤〕アケビ荀子アケヒ 倭名抄に本草註崔禹錫食經倭名本草等を引て、荀藤一名烏覆、又附通子はアケビといひ、通草はアケビカヅラといふと見えたり、これ則木通附支、其實を燕覆と名づくるもの也、アケとは赤色、ヒとは實也、實小さく木瓜の如くにして白く、熟しぬれば其内の赤きをいふなり、

〔古今要覽稿草木〕アケビかづら 通草

抄あけび和名あけびかづら本草和名あけびは朱實の義なりと、國史草木昆蟲攷にいへども、この實あかく色づくものにあらず、あけびはあけつびの省呼なり、歌にやまひめとよむも同意なるべし、山女の字を用、又ある人の曰、加賀の國にあけび村と云處あり、一には赤日村と書、一には山女村と書り、山女の字を以てあけびと讀事、いかなる義にや詳ならざりしに、或人越前の國へ行時、山中の茶店にやすらひ菓子様の物を乞しに、外には何もなし、山をんなのみといへり、夫にても出すべしといへば、あけびの實を出せりと、これにて山女の字を用る事も解せしとぞ、

〔宜禁本草乾藥〕アケビ木通 甘辛平微寒、通利九竅、關節血脈、不忘治痲、治脾疸、常眠心煩、出音聲、散諸結、不消惡瘡、利尿療乳結、下乳、子甘利二便、去煩、寬心、止渴、下氣去皮

〔大和本草六藥〕アケビ木通 蔓草也、蔓長ク大ニシテ堅シ、蔓即木通也、葉莖ヲ通草ト云、無毒、鞍馬ノ木芽漬ハ通草也、葉ハ五葉ニ分ル、三月紫花開、花容三分、秋圓子結ブ、此草山野林中ニ多ク生ズ、和名アケビ赤實ナリ、又トキハナルアリ、